

上下水道サービスの国際規格のJIS化

(2010.7.22)

日本水道協会と日本下水道協会は、7/22、上下水道サービスの国際規格「ISO24500シリーズ」の日本工業規格（JIS化）に向けた原案作成を開始した。

詳細は、下記の水道産業新聞と水道新聞を参照してほしい。

***解説：ISO24500シリーズは現段階では、検査方法には関連性はないものの水質管理等については注視していく。**

◆水道産業新聞 7月26日（月）付

◆日本水道新聞 7月26日（月）付

JIS化で国際展開後押し

上下水道サービスの規格

ISO24500シリーズ

飲料水・下水サービスに関する活動のISO規格である「ISO24500シリーズ」を、日本工業規格（JIS）化する検討が始まった。日本水道協会と日本下水道協会が事務局となり、「ISO24500シリーズ

JIS化原案作成委員会（委員長：長岡裕・東京都立大学教授）が設立された。同シリーズの趣旨を国内の上下水道事業への反映を図りたい考えがある。加えて、海外に進出する日本企業の支援ツールの1つとして国

JIS化原案作成委員会（委員長：長岡裕・東京都立大学教授）が22日、下水協で委員会の初会合が開かれた。JIS原案の内容について、国内外の上下水道サービス・管理の内容に乖離が生じないよう配慮することや、ISOの原文

で国内事情に適合しない用語・表現を修正する、といった作成方針が確認された。上下水道とも適用範囲をどう定めるかがポイントとなりそうだ。

長岡委員長は「これからの上下水道界のあるべき姿や、海外展開をする上でISO24500シリーズのJIS化は重要。日本の実情を踏まえてJIS化する必要がある」と話した。

国際標準へ適応めざす

ISO24500s JIS化へ原案作成

日本水道協会と日本下水道協会は22日、上下水道サービスの国際規格「ISO24500シリーズ」の日本工業規格（JIS化）に向けた原案作成を開始した。

長岡委員長

ISO24500シリーズ（ISO24500、24501、24502）の日本工業規格（JIS化）に向けた原案作成を開始した。ISO24500シリーズJIS原案作成委員会（委員長：長岡裕・東京都立大学教授）の初会合を下水協会会議室で開いた。国の成長戦略では、水ビジネスの国際展開とともに、標準化戦略も施策の柱に掲げられている。WTO／TBT協定においても国際規格を基礎とした国内規格の作成が求められているほか、国内企業が海外展開をはかるうえで、国内での国際標準に整合した事業展開が重要となる。また、ISO24500シリーズは、水ビジネスの国際展開の推進も期待される。

同委は、ISO24500シリーズの国内事情に合わせたJIS化に向けて、年度内に原案作成を行う。議事に先立ち、長岡委員長、日本協の山口晴工務部長、下水協の佐伯謙吉理事兼技術部長があいさつに立ち、JIS化を通じたサービスのレベルアップ、事業の活性化、水ビジネスの国際展開の推進のツールになることを期待した。

【長岡委員長以外の委員構成】

- 幹事：▽藤武大日本水道工業団 thể連合会技術委員
- ▽藤木修下 下水道新技術推進機構 下水道新技術研究所長
- 委員：▽熊谷和成厚生労働省水道課水道計画指導室長
- ▽川崎裕之国土交通省下水道部下水道企画課下水道事業調整官
- ▽千葉裕介日本規格協会規格開発部
- 今井滋東京都水道局浄水部浄水課長
- ▽坂屋芳治東京都下水道局計画調整部長
- 技術管理担
- 当課長
- ▽藤田雄志環境省環境創造局施設管理課
- 再生水施設管理課
- ▽上原珠枝 野アトリエ
- ▽級建築士事務所
- ▽若月孝子 水連合会事務局
- ▽安藤茂 水産技術研究所
- センター業務理事兼技監
- オプサー
- ▽井上 経済産業省水ビジネス国際インフラシステム推進室
- ▽同省基準認定ユニット
- ▽基準認定政策課等